■AI ガバナンスに関する情報提供

1. AI Governance Brief

1.1. 文書リンク

- <https://www.isaca.org/resources/ebook/artificial-intelligence-governance-brief>

1.2. 概要

- 本ホワイトペーパー「AI Governance Brief」は、AI の急速な普及に伴い必要とされる AI ガバナンスの視点を、初学者にもわかりやすく解説した資料です。
- AI のもたらすメリットとリスクを俯瞰しながら、組織が AI を導入・活用していく上で考慮すべき要素を、アンケート形式でセルフアセスメントできる構成となっており、AI 導入初期の企業にとって有用な出発点となります。
- 内容は以下のような構成となっています。
  - ・ AI のメリットとリスクの俯瞰（図表を含む）
  - ・ ガバナンス観点からの検討ポイント（質問形式）
  - ・ ガバナンス体制構築の構成要素（COBIT の参照を含む）
  - ・ 委員会や経営層による責任体制の重要性

1.3. 所感

- 本資料は、AI 利活用の導入初期段階にある企業にとって、ガバナンスの必要性を認識する上で有益な情報を多く含んでいます。特に、AI リスクとそれに対応するためのセルフチェック形式の質問群、また AI 活用によるメリット・リスクの整理は、社内での議論喚起や戦略立案の起点として活用が期待されます。
- 一方で、資料全体としては構成や表現に一貫性を欠く部分もあります。たとえば、COBIT との関連についても記載はあるものの、具体的なプロセスや事例への具体的な言及が少ない点が課題と言えます。
- 初学者向けとしての啓発的価値は高く評価されるものの、より体系的で構造的な整理とガバナンス体制との関連性を明確にすることが求められる資料です。

1.4. 今後の展望

- 本資料は、AI 導入に伴うガバナンスの観点を初期段階で整理する意義ある出発点であ

り、今後は COBIT や他のフレームワークを活用したより具体的な実装プロセスへの展開が求められます。ISACA 国際本部からも今後、AI ガバナンスに関する詳細なホワイトペーパー等もリリースされてる予定があり、ISACA 東京支部基準委員会としても、引き続き会員各位への情報提供を進めてまいります。

基準委員会 渡部、妻川、今本（2025.4.26 更新）

2. Leveraging COBIT for Effective AI System Governance

2.1. 文書リンク

- <https://www.isaca.org/resources/white-papers/2025/leveraging-cobit-for-effective-ai-system-governance>

2.2. 概要

- 本ホワイトペーパー「Leveraging COBIT for Effective AI System Governance and Management」では、AI システムに対するガバナンスとマネジメントにおける COBIT フレームワークの有効性について解説されています。
- 前半では AI の戦略的意義と関連リスク、各種ガイドラインやグローバルスタンダードの紹介を通じて、AI ガバナンスの重要性が示されています。後半では、COBIT の各ドメイン（EDM, APO, BAI, DSS, MEA）を AI ライフサイクルに適用する具体的な視点が提示され、ユースケース（e コマース企業での AI カスタマーサービス導入）を通じた実践的アプローチが紹介されています。

2.3. 委員所感

- 本ホワイトペーパーは、AI を中心としたガバナンスを真正面から取り上げており、AI の活用に対するリスクと機会の両面に焦点を当てている点で非常に意義深いものとなっています。
- 特に評価された点は以下のとおりです：
  - ・ 図表 5「AI Risk Categories」にて、AI に内在するリスクが 5 つのカテゴリ（倫理的使用、ポリシー・ガバナンス、技術・インフラ、運用・組織、新興・戦略）に分類され、それぞれについて具体的なリスクシナリオが提示されています。これは実務的に参考になります。
  - ・ ユースケースでは、AI によるカスタマーサービス導入における課題（バイアス、規制遵守、継続的パフォーマンス維持）に対して、COBIT の原則をどのように活

用するかが具体的に示されており、理論と実践を結びつける好例です。

- ・ 前半部分では、AI の戦略的重要性やリスク、各種 AI ガバナンス枠組み (OECD 原則、NIST AIRMF、ISO/IEC 42001、EU AI Act 等) について包括的に整理されており、AI ガバナンスの全体像を掴むうえで有用です。

- 一方で、COBIT フレームワーク自体が情報技術の全般に適用可能な構造であり、AI に特化したガイドラインとしては抽象的に感じられる部分もあります。各フェーズ (設計、開発、導入、運用、監視) における目標やガバナンス手段について、より具体的な記述や事例が増えることで、より実践的な適用が進むと期待されます。

2.4. 今後の展望

- COBIT を AI ガバナンスに適用する際には、各組織の特性や目的に応じたカスタマイズが必要であり、そのための判断基準やプロセスの明確化が求められます。今後、ISACA 国際本部より AI ガバナンスに特化した資格やガイダンス、ケーススタディ等のリリースの可能性もあり、ISACA 東京支部基準委員会としてもこれらの動向を注視し、会員各位に向けた案内や支援を積極的に行ってまいります。

基準委員会 小宮、高橋 (2025.4.26 更新)

3. Artificial Intelligence Audit Toolkit Workbook

3.1. 文書リンク

<https://store.isaca.org/s/store#/store/browse/detail/a2S4w000007kB9pEAE>

3.2. 概要

- 本ツールキットは、AI システム監査のための具体的な質問項目、評価手法 (Assessment Method)、必要となる証跡 (Evidence/Deliverables/Artifacts) を網羅的に提供する実践的なワークブックです。AI のライフサイクル全体 (設計、開発、市販後の監視など) を考慮しており、NIST AIRMF や EU AI Act といった主要なガイドラインや法規制とのマッピングも含まれています。

3.3. 委員所感

- 本ツールキットは、AI 監査の実務において有用な多くの視点を提供する一方で、利用にあたってはいくつかの課題も認識されました。評価できる点は以下のとおりです。
  - ・ NIST や EU のフレームワークとのマッピングがなされており、グローバルな視点での網羅的な評価に役立ちます。

- ・ 監査で必要となる証拠や評価手法が具体的に示されているため、実務で利用しやすい構成になっています。
  - ・ AI の各ライフサイクルフェーズや時間経過に応じて検討すべき事項が整理されており、体系的なレビューを可能にします。
  - ・ 実際の AI システムを活用した業務に即して、利用者視点とシステム提供者視点でのチェックすべき視点の示唆が得られます。
- 活用していくうえで留意すべき点は以下のとおりです。
    - ・ 非常に監査項目数が多く、全体を理解し、自組織に必要な項目を選択するには相応の時間を要します。
    - ・ 利用する際には、監査項目の設問には抽象的な表現も見られ、より具体的な内容への踏み込みが必要な場合があります。
    - ・ 自社で AI システム全体を開発・管理することを前提とした構成となっており、外部の AI サービスを API 連携で利用するような、AI の要素が部分的なシステムへの適用は難しい可能性があります。
    - ・ 監査項目に対する明確な評価基準（合格・不合格など）は示されておらず、利用する場合に組織で定義する必要があります。

3.4. 今後の展望

- 本ツールキットは網羅性が高く、実用的な監査項目も多く活用が期待できる反面、監査項目数も多く、実際の利用では、各組織の AI 利用形態や目的に応じて監査項目を取捨選択し、監査基準を設定する必要があります。
- AI の利用フェーズごと、あるいは利用者・提供者といった異なる視点での監査項目を作成する際の基礎資料として効果が期待できます。また、AI システムを提供する企業にとっては、法規制対応はもとより、製品の信頼性や競争力を高める上での重要な示唆を得られるものと思料します。ISACA 東京支部基準委員会としては、会員の皆様が本ツールキットをより効果的に活用できるよう、翻訳の必要性も含め、引き続き検討を進めてまいります。

基準委員会 小林、今本、妻川、松澤、福田（2025.8.3 更新）